



著者プロフィール

若井 新一（わかい・しんいち）

昭和22年 9月28日 新潟県生まれ
 昭和54年 目崎徳衛（志城柏）主宰「花守」にて作句開始
 平成10年 終刊まで会員
 昭和56年 「狩」入会、鷹羽狩行に師事
 昭和60年 狩座賞（新人賞）受賞
 平成元年 第1句集『雪意』上梓
 平成8年 第2句集『雪田』上梓
 平成9年 第43回角川俳句賞受賞（「早苗饗」50句）
 平成16年 巻狩賞（同人賞）受賞
 平成18年 第3句集『冠雪』上梓
 平成19年 宗左近俳句大賞受賞（第3句集『冠雪』）
 平成24年 『クイズで楽しく俳句入門』上梓

「狩」同人、俳人協会幹事、日本文藝家協会会員、新潟日報ジュニア文芸「俳句」選者、「角川」俳句クラブ通信添削講師、NHK学園俳句講師

〈句集『雪形』より転載〉〈2014年3月25日時点〉

『雪形』

（自選15句）
 若井 新一

雪霏々と越後の方位消えにけり
 雄叫びの天へ抜けたる牛角力
 沖合へ佐渡の退れる霧ぐもり
 人界は霧の底なり立石寺
 荒鋤の田へ舞ひ降りぬ山桜
 ほの白く天日すわる代田かな
 かすかなる風かたかこの花にこそ
 雪形の朝の風に嘶かむ
 乾鮭を挟りて日本海の風
 雪解の道みちのくへ開けけり
 天よりも青きものなし雪卸
 蘭よりもか黒き水を盗みけり
 峡中や蛇笏遠忌の雲の端
 一丈の雪の真下に父と母
 雪壁の繋がり合へる地縁かな